

レディス秋冬の レイヤードスタイル

最近よく聞くファッション用語として、「レイヤード」という言葉があります。レイヤードスタイルとかレイヤードルックといった使われ方をします。

レイヤー (layer) は、重ねるという英語です。レイヤードルックやレイヤードスタイルというのは、つまり重ね着ファッションのことです。半袖の下に長袖のシャツを着たりして、重ね着した衣服との色の違いや組み合わせ、また透ける効果を楽しみます。手持ちのアイテムを、バランス良く組み合わせるレイヤードスタイルは、おしゃれ上級者のイメージです。



この秋のアパレルブランドは、このレイヤードスタイルに注目しているようです。左の「ヴゼット」のキャミソールドレスは、秋向きのウールガーゼと流行のレースを組み合わせたもの。シャギーのライダーズジャケットなどとの重ね着。また、右の「ライフウィズフラワーズ」は、シャツワンピースの上からムートンのロングジレを重ねて、タテのラインを強調。さらにその下にロングのニットブリーツスカートを合わせたものです。(参考資料：織研プラス)



ファッション・ワンポイント: 縮んでしまわない乾燥機の使い方
クリップボックス・トピックス: レディス秋冬のレイヤードスタイル
繊維物語: 蚕の繭から約1500メートルの長い繊維が取れます
衣生活の知恵: 皮脂汚れが保管中に黄バミになる



乾燥機を使っている、一番困るのが、Tシャツやポロシャツが縮んでしまうこと。Tシャツやポロシャツなどの取り扱い絵表示には、タンブル乾燥禁止とあります。乾燥機を使って縮みやすい衣類は、素材で言えば綿や麻。織り方で言えば、編み地のものです。ですから、肌シャツなどを乾燥機で、最後まで乾かすと、乾燥の度毎に段々と縮んでいって、大人サイズのものが子供サイズにまで縮んでしまうことだってあります。

でも、縮ませない方法だってあるんです。肌着など編み地のものを乾かすときには、最後まで乾かさないうこと。縮む現象は、衣類の中の水分がなくなる寸前から急激に起こるんです。だから、これらのものを乾かすときには、乾燥機を「ちょっと乾燥」として使ってみましょう。洗い終わって、30分から60分間、乾燥機を使い、その後、吊り干ししましょう。タンブル乾燥によって、寝ていた繊維がフワッと起きあがり、風合い良く仕上がった上に、洗濯シワも少なくなり、もちろん、乾燥による収縮も減少します。

一度縮んでしまった衣類は、もう一度水に浸けて、軽く絞って干しましょう。元に戻ることがありますよ。



蚕の繭から約 1500 メートルの 長い繊維が取れます

最初に発明された化学繊維のレーヨンも、その後発明され、今では最も多く消費される繊維となったポリエステルも、絹繊維をイメージして作りだされたものでした。レーヨンは、日本では人造絹糸(じんぞうけんし)または略して人絹(じんけん)と呼ばれていました。人工的につくられた絹糸という意味です。大手繊維メーカーとして知られる帝人株式会社の社名も、帝国人造絹糸を略したものなのです。このことから、絹こそがあらゆる繊維の中でも憧れの天然繊維であることが分かります。なぜ、絹はそれほど人を魅了する繊維なのでしょう。それは、他の天然繊維とは決定的に違う理由があります。



蚕の繭と繊維

●絹は天然繊維唯一の長繊維

有史以来 19 世紀まで、人類の衣料素材はすべて天然繊維でした。

絹以外の羊毛などの獣毛、綿、麻などすべての天然繊維は、短いものですから、繊維をねじり合わせながら、紡(つむ)いで糸にします。これを紡績(ぼうせき)糸といいます。羊毛のメリノ種の繊維は 10cm 程度、綿の最も長い海島綿でも 5cm 程度です。繊維を糸にしようとするれば、短いものほど糸が太くなってしまふことになります。

しかし、絹の繊維はなんと平均 1500 メートルの長さがある長繊維(フィラメント)なのです。ですから、他の天然繊維に比較して、はるかに細い糸がつくれ、その糸で織った生地は、光沢があつて薄く柔らかなものになります。



左：絹糸(フィラメント糸) 右：毛糸(紡績糸)

●繊維が滑りやすいので目寄れにご注意！

絹織物の多くは、ほとんど撚りのない糸でできていますので、繊維が滑りやすく、激しい動きによつて「目寄せ」という糸が動いてかたよってしまう現象

が起こりやすくなります。絹織物製品を着るときには、なるべくエレガントにふるまうようにすることが、賢いおしゃれのたしなみというものでしょう。



皮脂汚れが保管中に 黄バミになる



脂取り紙を肌につけたり、指先がちょっとメガネに触れるだけで、皮脂がべったりと付いてしまいます。特に冬は皮脂の分泌量も多く、衣類にはたっぷり皮脂汚れが染み付いています。

クリーニングするのを忘れて、夏の間中放置していた秋冬物を出してみたら、黄ばんでいたといったことはありませんか？衣類に付いた皮脂汚れは、初めのうちは無色でも、徐々に繊維の奥に浸透していきます。梅雨の時期や夏場の高温多湿な条件で放置されると、皮脂は酸化され黄バミとなります。酸化してしまうと、変質して落ちにくくなります。